



株価急騰で上場以来最高値更新 好業績で60円の大幅増配予定

トレックス・セミコンダクター(6616)

今春に新規株式上場したトレックス・セミコンダクター(6616)は8月26日に上場以来最高値となる5390円を付けた。現在の同社株価は4575円(8月29日終値)急騰前の数値と比べると約4割上昇している。株価急騰の引き金となったのは8月22日発表の外付けコンデンサ遅延タイプ電圧検出器「X

C6129」シリーズのリリースだ。話題のウェアラブル機器関連製品として注目を集めた。背景として市場に材料が乏しく、小型株が人気だった面がある。

大きな買い注文につられて一時的に高値を付けている可能性は否定できない。しかし、指標を見るとPER10・89倍と割安感が強い。今回は

の肝である。

同社は「超小型電源ICに特化したアナログ専門集団」を自称し、半導体デバイスの開発・設計製造や、半導体デバイスの販売を行っている。顧客の要望にすばやく対応するため2012年に部門統一を行い、より機動的な企画・開発が可能となった。

主力製品は電源IC。電子機器の心臓に例えられ電子機器であれば必須の装置。安定した電圧を各部品に送るのがその役目だ。今注目のスマートメーターからカーナビ等車載器、果ては小型のおもちゃにまで同社製品は幅広く使用されている。重点分野はあるものの特定の製品に依存する事が無く、市場の変化に左右されづらい安定した収益が強みである。

2015年3月期第1四半期決算では通期予想は増収増益。当期純利益のみ前期比減益予想だが、これは今期から法人税等の支払いが増えるためであり、実質増益。産業機器・車載機器を重点分野と位置づけ新規商談獲得に注力。また新製品の企画・開発。利益率14~15%の高収益体質維持のために、より小型・省電力を追及したものや中高耐圧等の付加価値の高い新製品の企画・開発力を強化等の施策により同四半期は概ね計画通りに推移した。

通期予想は別表の通り。

セグメントは日本・アジア・欧州・北米の4つに分かれており、日本の売上高は6億7400万円、アジアの売上高は13億5000万円、欧州の売上高は1億6300万円、北米の売上高は1億4300万円となった。何れも産業機器が堅調に推移し、国外ではPC・家電等、国内で

は車載機器が好調であった。

同社は更なる信用力の獲得のため目標として東証1部上場を掲げている。利回りのよさで株主に還元していく方針の下、今期配当は60円の大幅増配で100円を予定している。また、自己資本比率80・1%と安定した財務基盤を持っているため安心感も強い。

【トレックス・セミコンダクターの業績】

| | |
|-----------|---------------|
| ■2015年3月期 | 第1四半期業績 |
| 売上高 | 22億8700万円 |
| 営業利益 | 2億4700万円 |
| 経常利益 | 1億8300万円 |
| 四半期純利益 | 1億1600万円 |
| ■2015年3月期 | 通期連結業績予想 |
| 売上高 | 104億円(10.7%増) |
| 営業利益 | 15億円(6.0%増) |
| 経常利益 | 15億円(12.0%増) |
| 当期純利益 | 11億円(18.9%減) |

※()は前年同期比

の高値更新で知名度は上昇、同社の強みである事業の安定性や積極的な株主還元策等の評価しだいで再び上昇する可能性がある。件の新製品だが電圧検出器はその名の通り電圧を監視する装置だ。安定して動作するのに必要な値を下回った場合アラームを出しユーザに知らせる等の機能がある。新製品には同社の技術的特徴の「小型化」・「省電力化」が存分に生かされ、従来品に比べより「高精度」・「省電力」。誤検出を防止する検出遅延機能が搭載されているなど機能も多い。にもかかわらず大きさは従来と変わらず「業界最小クラス」のままである。ウェアラブル機器に限らずマイコンを使用する全ての製品(白物家電やリモコン・電子体温計・電動ドリル等多様)に搭載可能だ。この入り口の広さが同社好業績